

売れる！マネジメント術

第3回 次々と立ちはだかる壁を乗り越える ～メンタルタフネスとリスクマネジメント～

株式会社 MMコンサルティング
代表取締役 上野 光夫

◆はじめに

こんにちは！MMコンサルティングの上野です。

日本政策金融公庫で約5,000名の起業家への創業融資に携わり、独立して以降は600名以上の起業家や経営者へのコンサルティングを行っています。

1月から6回に渡り、『売れる！マネジメント術』と題し、起業して儲かる経営者になるための“マネジメント術”についてお届けしています。

シリーズ3回目となる今回のテーマは、起業後に直面する危機を乗り越えるために必要な「メンタルタフネス」と「リスクマネジメント」について解説します。

それではどうぞお付き合いください。

◆事業経営に「安定」の2文字はないと心得る

起業して1～2年が経過すると、周囲の人から「そろそろ経営は安定した？」と質問されることがあります。私も身内や友人から聞かれて、「う～ん。まあボチボチかな」とあいまいに答えたものでした。

多くの起業志望者は、起業後の経営について“右肩上がりのカーブを思い描き、時間が経過するうちに事業は軌道に乗り、その後は安定した水平飛行をし、さらに上昇気流に乗る”というイメージを持っています。

ところが、周囲の人から「安定した？」と問われる頃には、起業前に思い描いたイメージとのギャップを痛感するものです。なぜなら、ほとんどの起業家が、“右肩上がりで軌道に乗った”というよりも、“山あり谷あり”で、安定とは程遠いからです。

起業前に覚悟すべきことは、事業経営に「安定」の2文字はないということです。ようやく安定したと思っても、油断すると再び谷に落ちてしまいます。起業するなら、「不安定が当たり前」と腹を据える必要があるのです。

◆ “しぶとさ”を備えれば事業経営は楽しい

「経営に安定はない」と聞いて、起業するのが怖くなった方がいるかもしれません。でも、ご安心ください。経営は、たとえ不安定だとしても、とても楽しいのです。その証拠に、起業家のほとんどは「二度とサラリーマンには戻りたくない」と言います。

ただし、楽しいといっても不安定で、谷からころげ落ちる一方だと、廃業や倒産という事態に陥る危険性があります。そうならないためには、谷から這い上がる力を備えることが大切です。

私は、3万人以上の経営者に会ってきた経験から確信していることがあります。

それは、事業を長く繁栄させる経営者は、どんな不測の事態でも心が折れずに立ち向かう“しぶとさ”を備えているということです。山と谷を繰り返しながらも、しだいに事業をスケールアップしていくのです。



◆ セルフマネジメントのためにメンタルタフネスを鍛えよう

“しぶとさ”の源泉の一つは、メンタルタフネス、つまり心の強さです。メンタルが強ければ、自分自身をうまくマネジメントすることができます。起業前に、メンタルタフネスを鍛えておくことが非常に重要です。

私は、精神科の医者でも心理学者でもないのですが、学術的なことを論じることはできませんが、多くの経営者に会った経験からいえる効果的な方法があります。メンタルタフネスは、考え方や行動を変えることで鍛えることが可能です。

具体的には、次のような方法があります。

①自分を客観視する

厳しい状況下にあっても、自分を客観視することで乗り切ることができます。たとえば大勢の前でプレゼンするときに、もう一人の自分が隣にいて「話す練習をしたから大丈夫」と励ますイメージをもつと、緊張せずにうまく話すことができます。

②動物・植物・芸術に親しむ

日頃から、動物や植物、絵画や音楽などの芸術に触れておくと、イライラせず平静な心を保つことができます。私が知るある経営者は、机に生花を飾っておくと、モチベーションが高まるそうです。

③身体を動かす

ウォーキングや筋トレなど、身体を動かせば、少々嫌なことがあっても気持ちを切り替えることができます。

④瞑想する

昨今、著名な経営者たちが実践して効果を上げているといわれています。

⑤ユーモアやお笑いを活用

どんな不測の事態にも、ユーモアを飛ばす余裕をもてば乗り切ることができます。また、落語や漫才を観て笑うことは、ストレス解消にも役立ちます。

これ以外にも、さまざまな方法を取り入れている経営者がいます。いずれもほんのちよとした心がけですが、次第にメンタルタフネスを鍛えることができます。ぜひあなたも、効果的な方法を見つけて実行してみてください。



◆ リスクマネジメントで危機を回避する

経営をしていると、予期しない危機に直面することがあります。とくに小さな企業の場合、一つの失敗がきっかけで破綻してしまうことがあるので要注意です。危機のすべてを回避することはできませんが、発生の可能性を最小限に抑えることは可能です。事業の存続を脅かす危険性の発生を最小に抑えることが、“リスクマネジメント”です。

起業から間もない小さな企業で想定される代表的なリスクと、その対策については次の表のとおりです。あくまでもリスクの一部であり、他にもさまざまなものが考えられます。

【リスクの種類と危機を最小化する方法】

リスクの種類	内容	危機を最小化する方法（例）
技術に関するリスク	技術やノウハウを模倣される	知的所有権によって守る
回収に関するリスク	販売先の倒産などにより、期日通りにお金が入らない	販売先の信用調査を徹底する
社員による犯罪リスク	経理担当者がお金を使い込む	任せきりにしない
クレームによるリスク	クレームから大トラブルになる	クレームには誠実に対応する
情報漏えいのリスク	社員が情報を外部に持ち出す	情報セキュリティ対策を実施する
誹謗中傷によるリスク	ネット上で根拠のない誹謗中傷の情報を書き込まれる	定期的にチェックして対策する
経営者自身のリスク	<ul style="list-style-type: none">健康を損ない経営が続けられなくなる誘惑や油断によりお金を浪費するお金や時間にルーズなために信用を失う	セルフマネジメントを意識する

また、起業する際は、勤めている会社との関係に配慮しておくことも重要です。

例えば、製造業の会社を退職して起業したAさんは、起業後に元勤務先から「競業禁止義務（※）に違反した」として多額の損害賠償請求をされました。Aさんが会社員時代に立ち上げた新規事業を、そのまま引き継いで独立したためです。

※「競業禁止義務」とは、労働者は所属する企業と競合する会社・組織に就職したり、競合する会社を自ら設立したりするなどの競業行為を行ってはならないという義務のことです。

従業員の退職後に競業他社への就職を禁ずることを定めた、誓約書や就業規則に含まれる特約がある会社の場合、退職後に前勤務先と争いになる恐れがあります。

トラブルを避けるためには、あらかじめ、勤務先の経営者に了解を得ておくことが重要です。

◆最大のリスクは経営者自身

実は、小さな企業の場合、経営者自身がリスクの元凶になっていることがほとんどといっても過言ではありません。事業継続を脅かす危機は、特に事業が軌道に乗りはじめたときに、経営者が慢心して招いてしまうことが多いのです。

常に経営者としてレベルアップできるよう努力し、軌道に乗ったときこそ、謙虚にセルフマネジメントを心懸けることが重要です。

◆まとめ

今回は、一般的な起業セミナーではあまり取り上げられないことについて解説しました。あなたもぜひ、メンタルタフネスを鍛えるとともに、リスクマネジメントを行い、事業を長く繁栄させてください。

次回は、「人材とチームのマネジメント」について解説します。どうぞ楽しみに！

◆プロフィール

上野光夫（うえのみつお）

■株式会社 MMコンサルティング 代表取締役・中小企業診断士

■1962年鹿児島市生まれ。九州大学を卒業後、日本政策金融公庫（旧国民生活金融公庫）に26年間勤務し、主に中小企業への融資審査の業務に携わる。3万社の中小企業への融資と、5千名の起業家への創業融資を担当した。融資総額は2,000億円にのぼる。

2011年4月にコンサルタントとして独立。起業支援コンサルティング、資金調達サポートを行うほか、研修、講演、執筆など幅広く活動している。

日本最大の起業家支援プラットフォーム「DREAM GATE」において、アドバイザーランキング「資金調達部門」で3年連続して第1位に輝く。

■著書

『3万人の社長に学んだ「しぶとい人」の行動法則』（日本実業出版社）

『起業は1冊のノートから始めなさい』（ダイヤモンド社）

『「儲かる社長」と「ダメ社長」の習慣』（明日香出版社）

『仕事で結果を出す人はこの「きれいごと」を言わない』（フォレスト出版）

■運営サイト

<http://www.kigyoseiko.com/>（起業成功ドットコム）

<http://kigyokoza.com/>（起業通信講座）

<http://mmconsulting.jp/>（コーポレートサイト）

